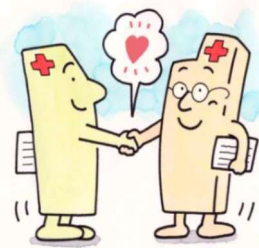


第 2 1 3 号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



東北大学消化器内科正宗教授
カンファレンスの様子

今号の内容

- ・東北大学消化器内科正宗教授カンファレンスの様子 (1)
- ・東北大学消化器内科正宗教授カンファレンス開催報告・当院消化器内科について 消化器内科 部長・消化器内視鏡センター長 鈴木 郁 / 肝胆膵領域疾患への取り組み 消化器内科 副部長 長 いく弥 (2)
- ・肝胆膵外科高度技能専門医取得のご報告 / 救急救命士による症例検討会開催報告 医事課 課長 西川 和彦 . . (3)
- ・臨床研修医実習報告 / 年末年始休診のお知らせ (4)

東北大学消化器内科正宗教授カンファレンス開催報告

消化器内科 部長 消化器内視鏡センター長 鈴木 郁



去る2023年10月2日、東北大学病院消化器内科の教授であります正宗淳先生が来帯され、当院へ来院されました。私を含め、当科では複数の医師が正宗教授の御高配により当院へ赴任させて頂いております。正宗教授は膵臓疾患を御専門とされ、特に早期慢性膵炎の領域において全国的にも非常に高名であることから、当科へ現在通院されている患者さまのうち、特に膵臓疾患で今後の治療方針に議論の余地がある方々を中心に約1時間のカンファレンスを行い、大変貴重な御意見の数々を賜りました。その後は個別



に面談も行って頂き、数々の有難い激励のお言葉も頂きました。それらを胸に、今後も十勝医療圏の消化器疾患の診療に携わる者として地域の皆様少しでも貢献していけるよう、全身全霊をかけて邁進していく所存です。引き続きの御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

当院消化器内科について

当院では現在、常勤・非常勤及び研修医を合わせまして常時10名前後が在籍しております。消化器疾患は上部消化管領域、下部消化管領域、肝臓領域、胆膵領域等多岐にわたりますが、その中で各自スペシャリティを持ちつつ、多様な消化器疾患について日々診療に取り組ませて頂いております。地域の皆様及び医療機関の先生方におかれましては、腹痛や下痢といった消化器疾患を示唆する症状を認める場合や、採血上貧血や黄疸、腫瘍マーカー上昇を認める場合など、それ以外にも何か気になる症状がございましたら、適宜当科へ御相談のうえ御来院・御紹介を賜れますと幸甚です。今後とも十勝医療圏の消化器疾患治療に貢献できるよう、全身全霊で臨む所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。



肝胆膵領域疾患への取り組み 消化器内科 副部長 長 いく弥



平素より大変お世話になっております。消化器内科副部長の長と申します。当院での肝胆膵領域疾患への取り組みについて紹介致します。

肝臓はウイルス性肝疾患のみならず、自己免疫性肝疾患、アルコール性肝疾患、脂肪性肝疾患、肝腫瘍を扱っております。脂肪性肝疾患は増加の一途を辿り、肝硬変や肝細胞癌に至る症例も経験しております。また昨今肝細胞癌に対する治療として免疫チェックポイント阻害薬が承認され、当院においても導入しております。

膵臓に関しては、急性、慢性膵炎や膵癌などの膵腫瘍を扱っております。当院は帯広市医師会と連携し帯広膵がん早期診断プロジェクトに参加し、患者さんの予後向上に向けて化学療法、手術療法を行っております。

胆道は胆嚢結石、胆嚢ポリープを始めとした良性疾患や胆道癌を扱っております。内視鏡的逆行性胆管膵管造影関連手技は昨年度約190件であり、内視鏡的胆管結石除去術がその半数を占めておりました。

肝胆膵疾患いづれにおいても外科と緊密に連携し、診療を行っております。今後とも御高配の程何卒宜しくお願い申し上げます。

外科 土屋朗之先生 肝胆膵外科高度技能専門医取得のご報告

副院長 井伊 貴幸 / 外科 部長 土屋 朗之



地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。

2023年4月1日より、当院外科に赴任となりました土屋朗之先生ですが、肝胆膵外科高度技能専門医を取得しましたことをご報告させていただきます。

肝胆膵外科手術は消化器外科の中でも特に難易度が高いと言われており、主に肝癌、膵癌、胆道癌などの手術を行います。この難しい手術を安全かつ確実に行うために、一定の高難度手術を経験し、手術記録や手術ビデオの審査を通過した医師だけが高度技能専門医となれます。現在、日本全体で約500名ほどで、十勝管内ではわずか2名しかおりません。（当院と帯広厚生病院）

肝癌や胆道癌などの肝胆膵領域の悪性疾患は、抗がん剤が効きにくいいため、完治するための第一選択は手術治療ですが、出血や合併症のリスクもあるため可能な限り安全に行うことが重要となります。

地域の先生方、患者様のお役に立てるように、土屋先生を中心として肝胆膵外科の高難度手術にも対応できる体制を整えておりますので、お困りの症例がありましたら是非ともご紹介いただけますと幸いです。

今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます。

救急救命士による症例検討会開催報告

医事課 課長 西川 和彦

令和5年9月28日（木）18時より、とかち広域消防局による令和5年度第3回症例検討会が当院6階第一会議室にて開催しました。感染予防対策のため人数を制限し、ZOOMによるWEB形式にて行いました。

帯広消防より「心疾患を疑って活動した事案が急性腎不全であった症例」として血圧が下がって動けないとして救急要請した症例と、音更消防より「低血糖発作症例を搬送した症例」として外出中に車中で動けなくなって救急要請した症例の2症例を検証しました。

各発表者より、通報から搬送、考察があり、診察医より搬送後の医療処置、入院後の経過説明や質疑に対する回答を行いました。

搬送時の患者情報（症状等）は病院での検査・治療の準備等に非常に役立つため情報収集、伝達の重要性を伝えていました。

積極的な質疑があり当院と消防隊員の情報共有がより深まり有意義な検討会となりました。

最後に総括として、山並院長より当院の救急受入れ態勢や救急隊員への感謝を述べられていました。

当院では積極的な救急搬送の受入を行っていることから、今後も救急隊員の皆様と当院の協力体制強化に努めていきたいと思っております。



臨床研修医実習報告



臨床研修医
三塚 裕斗

十勝管内の医療従事者の方々には日頃から大変お世話になっております。

今年度に入りまして、地域医療実習、精神科、小児科、産婦人科をローテーションしました。いずれの研修も自施設外で行い、地域医療実習は十勝いけだ地域医療センター、精神科は大江病院、小児科は帯広協会病院、産婦人科は慶愛病院でそれぞれ研修させていただきました。

いずれの施設の先生方もそれぞれの診療科の特色や重要な点について各4週間という限られた時間の中で非常に懇切丁寧にご指導していただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。研修を通して、十勝という地域において周囲の医療機関に支えて頂き、また連携していくことの大切さを実感することができました。

10月からは帯広第一病院にもどつての研修となりますが、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。



臨床研修医
濱田 健太郎

帯広及び十勝管内の皆様いつもお世話になっております。

早くも帯広第一病院医師として働き始めて半年が過ぎようとしております、今年から北海道に住み始めて慣れない土地での生活に不安もありましたが皆様の温かいご支援のおかげもありまして毎日楽しく過ごせております。

少しずつ仕事にも慣れてきたのではないかと感じておりますが、「慣れた」という状態に油断すると不手際が生じてしまうこともありますので自分を律して今まで以上にしっかりと働いて行かねばと決意を新たにしております。

また当たり前のことではありますが、医師として病気に向き合うのみならず1人1人の患者様に向き合っていこうと思います。その結果として帯広、十勝管内の皆様に応援いただけるような医師になっていければ幸いです。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



年末年始休診のお知らせ

令和5年12月30日（土）から令和6年1月3日（水）まで
外来診療を休診とさせていただきます。

1月4日（木）より通常診療となります。



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121（病院代表） / 0120-558-091（連携室直通）

FAX 0155-27-0248（連携室専用） e-mail renkei@zhi.or.jp

